

平成 26 年度決算概要

学校法人熊本城北学園の平成 26 年度決算は、平成 27 年 5 月 29 日に開催された理事会及び評議員会において承認されました。

ここでは、企業会計における損益計算書に相当する消費収支計算書及び財政状態を表す貸借対照表をもとに、平成 26 年度決算の概要についてご報告致します。

1. 消費収支計算書

(1) 消費収入の部

帰属収入すなわち当法人の負債とならない純粋の収入は、前年比 722 万円減の 22 億 5,499 万円となりました。

帰属収入から基本金組入額を差し引いた消費収入は、前年比 4,514 万円増の 22 億 5,499 万円となりました。(当期は基本金組入額が発生しなかったため帰属収入＝消費収入となっております。)

主な増減の要因は以下のとおりです。

- ① 学生生徒等納付金…在籍学生数の減少により、前年比 8,744 万円の減収となりました。
- ② 手数料…入学検定料収入の減少等により、前年比 1,116 万円の減収となりました。
- ③ 寄付金…特別寄付金の減少等により、前年比 42 万円の減収となりました。
- ④ 補助金…国庫補助金の増加により、前年比 1 億 9 万円の増収となりました。
- ⑤ 資産運用収入…受取利息・配当金の増加等により、前年比 465 万円の増収となりました。
- ⑥ 事業収入…補助活動収入、受託事業収入の減少等により、前年比 207 万円の減収となりました。
- ⑦ 雑収入…私立大学退職金財団交付金の減少等により、前年比 1,035 万円の減収となりました。

(2) 消費支出の部

消費支出は、前年比 943 万円増の 21 億 5,744 万円となりました。

主な増減の要因は以下のとおりです。

- ① 人件費…教員人件費、職員人件費の増加等により、前年比 2,279 万円増加しました。
- ② 教育研究経費…消耗品費、旅費交通費、賃借料等の減少により、前年比 959 万円減少しました。
- ③ 管理経費…物品費、手数料報酬、業務委託費等の増加により、前年比 1,104 万円増加しました。

消費収入から消費支出を差し引いた当年度消費収入超過額は、前年比 3,571 万円増の 9,755 万円となり、3 期連続の収入超過となりました。前年度繰越消費収入超過額に当年度消費収入超過額及び基本金取崩額 4,881 万円を加えた翌年度繰越消費収入超過額は 8 億 1,825 万円となりました。

また、帰属収入から消費支出を差し引いた帰属収支差額は、前年比 1,664 万円減の 9,755 万円となりました。

帰属収支差額の帰属収入に対する割合は、前年比 0.7 ポイント低下して 4.3%となっております。

2. 貸借対照表

(1) 資産の部

資産総額は、前年比 2 億 1,132 万円増の 99 億 4,417 万円となりました。

主な増減の要因は以下のとおりです。

- ①固定資産…減価償却引当特定資産の新規取得及び奨学資金引当特定預金積み増しに伴うその他固定資産の増加等により、前年比 14 億 6,054 万円増加しました。
- ②流動資産…上記、減価償却引当特定資産の新規取得及び奨学資金引当特定預金積み増しに伴う現金預金の減少等により、前年比 12 億 4,921 万円減少しました。

(2) 負債の部

負債総額は、前年比 1 億 1,377 万円増の 10 億 5,427 万円となりました。

主な増減の要因は以下のとおりです。

- ①固定負債…退職給与引当金の増加により、前年比 1,791 万円増加しました。
- ②流動負債…未払金の増加により、前年比 9,586 万円増加しました。

(3) 基本金の部

基本金総額は、第 1 号基本金の減少により、前年比 4,881 万円減の 80 億 7,165 万円となりました。

(4) 消費収支差額の部

消費収支差額は、前年度繰越消費収入超過額に当年度消費収入超過額を加えて、前年比 1 億 4,636 万円増の 8 億 1,825 万円となりました。

(5) 負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計

負債の部、基本金の部、消費収支差額の部合計は、前年比 2 億 1,132 万円増の 99 億 4,417 万円となりました。

基本金に消費収支差額を加えた本学園の正味財産は、88 億 8,990 万円となりました。これは前年と比較して 9,755 万円増加しております。

正味財産の総資産に占める割合は、前年比 0.9 ポイント低下して 89.4%となりました。

なお、減価償却の累計額は、前年比 1 億 5,281 万円減の 33 億 9,640 万円となっております。

以 上